

トンネル補修工事の施工効率化

アキテックの「HTパネル工法」

「南風原知念線（第1トンネル）補修工事（R4）」に採用

伸和建設株（名嘉重男社長）は、南城市内で施工している「南風原知念線（第1トンネル）補修工事（R4）」（県南部土木事務所発注）で株アキテック（本社・富山県、秋田浩志社長）が開発した「HTパネル工法」を採用。トンネル補修工事で現場作業の効率化を図っている。

HTパネル工法は、軽量なパネルをステンレスアンカーでコンクリート構造物に取り付け、エポキシ樹脂で固定していく。トンネル改修工事では、耐火性の強い特殊パネルをトンネル覆工表面に貼付ける方法で施工す

る。30mm以上のトンネル覆工厚や1200mm以上のトンネル曲率半径に適応可能。ひび割れやはく落、断面欠損、ジャンナ、漏水、侵入水、段差、突起など様々な状況のコンクリート面で施工可能。人力による作業が可能で、従来方式に比べて技術的な専門知識を必要とせず、工程の中断による品質低下のリスクも最小限に抑えられるという。

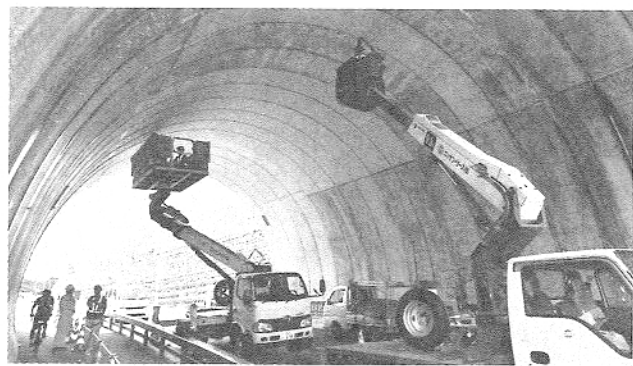
平均気温5℃以上かつ湿度85%程度までの施工条件に対応し、これまでに県発注の於茂登トンネル補修工事や東系列導水路トンネル補修工事でも採用さ

れている。補修に使用するパネルは、高靱性フレキシブルボード、補強繊維シート、合浸樹脂などの多層構造でパネル1枚の標準寸法は1m×2m、厚さ5mm。複数パネルを接続することで大面積への設置や帯状での設置も可能。さらに、施工後のメンテナンス性や耐用年数の長さも特長。

県内で多く見られるピロティ建築の構造耐震補強への応用も期待されており、アキテックでは琉球大学工学部の中田幸造研究室と共同でミニ耐震壁（THW工法）の開発も進めている。

同社現場主任の椀澤久樹氏は「HTパネル工法は沖縄の施工環境に適しており、県内で多く採用してもらえよう、これか

らも普及に努めたい」などと語った。



トンネルアーチ部にHTパネルを取り付ける様子